ガガガマジシャンに憑依した人の物語

クロトジル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ガガガマジシャンに憑依した人の物語

【Ｎコード】
Ｎ２６０９Ｚ

【作者名】
クロトジル

【あらすじ】
タイトル通りガガガマジシャンに憑依したオリ主が、遊戯王の様々なモンスター世界を行き来して、思うがままに生活するだけの物語。笑いアリ、涙ナシの基本的に楽しいＳＳにしたいです。「ガガガ！」っと叫びたい人に打って付けの小説がここに誕生！！

プロローグ（前書き）

このＳＳには作者の独自解釈が多分に含まれています。それでも構わないという方でお読み下さい。

プロローグ

「…ここはどこだ？」

俺の第一声はこれだ、何というか平凡ですまん。

別に誰かに弁明する訳でもないのだが、頼む、言わせてくれ。本当に今、俺はどこにいるんだ？

俺の目の前には多くの木や草が生い茂っている。左右と後ろも確認してみるが同様の景色が視界に映る。現在の俺はどうやら森の中にいるみたいだ、まぁそれも実際どうでもいい話なのだが。

次に俺は自身の記憶を辿っていくことにした。無難に名前辺りから記憶している内容を順に声に出していこうか。

「俺の名前は藤堂　源（トウドウ　ゲン）。歳は１９、両親はとっくの昔にお逝きになって、今では親戚のおじさんとおばさんの援助で大学へと通わせて貰っている。現在は一人暮らしで彼女はいない。」

「趣味は無い……と言いたい所だが、カードゲームが唯一の趣味だ。

…とは言うものの実際には友人からタダで貰ったカードで適当にデッキを作成して遊んでいただけなのだが。」

「最後に覚えている記憶は…ベッドの上でカードを眺めていたことだな。友人が新弾のパックを箱買いしたらしく、開封して使えないと判断したカードを全部俺にくれたんだよ。結構な枚数は有ったし、中には絵や名前の部分が光っている物も有るくらいだから素直に店に売った方が得だと思うんだが。」

記憶を遡ったうえで、俺は一つの結論に辿り着いた……これは夢なのだと。

精々ベッドの上で横になっているうちに睡魔に襲われて、夢の中のこの空間に俺は佇んでいるという状況なのだろう。よし、ファイナルアンサー。

別に誰かが「正解！」と言ってくれるわけでも無いが大方その解答で間違いない。どうにも夢は未だ覚める気配をみせない。この際だ、この夢の中を俺を満喫してみようと思う。とりあえずは適当に森の中をぶらついてみるか、何か面白い物でも発見するかもしれないし。

別に難しく考える必要も無い、なにせこの空間は夢の中なのだから。目覚めるまでの短い間だが、俺の思うがままに進んでみるさ。

プロローグ2

森の中を淡々と歩き回っている俺だったが、突如として歩みを止めた。別に何かを発見した訳では無いが、どうにも気になることがあるのだ。

「身体が重い…。」

俺は違和感の原因となっている自信の服装を確認していく。第一に目につくのは鎖、それも極太でかなり長めのものだ。先ほどからジャラジャラと音を立て俺に纏わりつく鎖、それは首元付近から垂れ下がってあり、腰の部分にある金のプレートを通った後に右足に執拗に絡み付いていた。鎖を軽く握ってみたが結構な重さを所持しており、取り外し可能であれば危険な武器になりそうである。

次に違和感の原因となるのは俺の全身という全身を覆っているであろう皮製のコートのようなもの。青を基調としていて俺の上半身から足元付近まで生地が厚めの服が俺に覆い被さってくる。足元付近に至っては橙色の炎を模写したようなペイントまでされている。うわ…なんかこれコスプレっぽくて恥ずかしいんだが。そして全体的に服が青色で染まっていることで気付くのが遅れたのだが、よくよく見ると内側に着ている服って高校生とかが学校に行く際に着ていく学生服じゃね？他の装飾品とか諸々に騙されて気付き辛かったし何より服の素材やら色が計ったかのようなレベルで同じ物だったし。

自分の現在の服装には指摘すべき箇所がまだまだ存在していた訳だが、一つ一つ挙げていくと限が無いので俺は我慢して先に進むことにした。出来ればもっとラフな服装に着替えたい所なのだが、何度も言うようにこれは「夢」、別に何時間後には現実（リアル）で目覚めるわけだし、むしろこの状況を楽しんでみるべきでは！？……という考えで俺は無理やり自身を納得させる。

それから俺は森の中を数分歩いて進んだ後、草木があまり生い茂っていない開けた場所に辿り着いた。結構な距離を歩いたしせっかくだ、ここで休憩でも取ることにしよう。

見計らったかのように目の前にある切り株に俺は腰掛け一息ついた。そして無意識にポケットの方に手を伸ばし……ってさすがにタバコは持って無いか……。

少しテンションが落ち込んだ俺は特に意味も無く空を見上げた。太陽が俺の真上で暖かい光をばら撒いている、時間帯は昼間ってところか？まぁ別にどうでいいんだが…。

それにしても現実（リアル）の俺よ、そろそろ起きてはくれまいだろうか？もうこの夢の世界は満足したんだよ、別に何か面白い発見があるわけでもない、ただ森の中を歩き回って疲れただけだ。

「ガサゴソ…」

せめてもう少し刺激のある何かが出てくれば良かったものの、そんな気配すら全くないし…。

「ガサゴソ……ズボッ！」

早く目を覚ませ、現実の俺。俺は戻って早急にデッキ作成を開始しなくちゃいけないのだからな。

「ふぅ…よいっしょっと。」

「ん？」

少し考え事をしていて気付かなかったがどうにも前方から声が聞こえたようだ。視線を声の主へと向ける。

「おっ？」

「あっ。」

うん……奇妙な奴を発見。モグラっぽいんだけど、何故かつるはし持ってるし、鼻に花が付いてるし……ダジャレとかじゃないぞ？後、外見に驚かされて判断に遅れたが言葉も喋ってる、結構面白い奴だな～。

目を覚ますのはもう少し後でもいいか、まずは目の前のモグラ（笑）に声を掛けてみよう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2609z/

ガガガマジシャンに憑依した人の物語

2011年12月25日02時53分発行